

電子複写不可

複製史料

沖繩関係資料

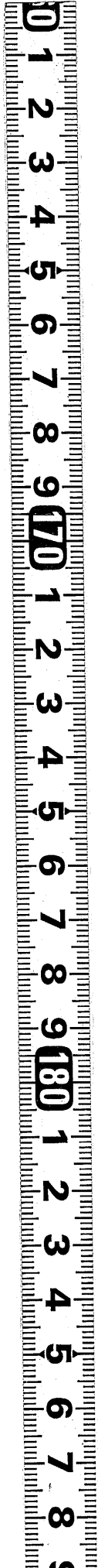
独立歩兵第三一大隊略史

2115 山内長 山中明 少尉

14. 7.
20. 6. 11



防衛研修所戦史室



独立歩兵第三十二大隊略史

創立

昭和十二年一月

徐州の戦後陸海線敷備の目的を以て開封を創

立す部隊長 中佐以下六十五名

他は独立隊第一旅團他は独立歩兵第三十二大隊中編

當時旅團司令部の山東省自張店に在り

当隊の東より西陸海線敷備に任ず

昭和十二年

作命に依り司令部駐屯地より張店に異動

部隊長に甘の后山崎 橋場各中佐(ラ印)

當時は陸軍戸山司令部教官タリ 此地中佐ナリ

總員約九百名 昭和十七年一月 昭和十

七年七月に隊を同時編成強化す

四中队 中佐 中少尉 四少尉

昭和三十七年	下士官以下約一〇〇〇名。 聯隊砲二
大隊砲三 重機八 日支馬約四〇頭	數の 爾后本格的野戰討伐部隊トシテ
新発足ス	通稱号カカシニ 部隊ナリ
當時の將士ハ 月中 兵營ニ 居ルハ 二週	間 是ニテ 兵民家ニ 山野ニ 伏シ
作戦討伐ニ 成功セリ	第一軍 土橋中將ノ 創案ナル 完全包围
戦去リ 行ハ 戦果ニ 日英ニ 部隊ノ 勇名ハ 葉	ニ 張リ
方ニ 由 固南ニ 轉進 津ノ 谷 以 東方ニ 沿	進駐 兵 執ニ 候 同 小 面 故ニ 備 夫 經 子

昭和三十二年	山東省莒南县移駐
昭和三十二年	引地部隊長戦死ニ依リサマ時他之浪成ヲ以テ旅団高級副官タルニ敵隊力花着仕
昭和三十二年	新部隊長名西林中佐ヲ仰フ
昭和三十二年	勳口具下之他之浪成第ニ旅団解散
昭和三十二年	第ニ下之他之浪成第ニ旅団解散
昭和三十二年	第ニ下之他之浪成第ニ旅団解散
昭和三十二年	部隊長西林中佐以下 440名
昭和三十二年	大隊本部 第ニ中隊 步兵 砲中隊 機同銃
昭和三十二年	中隊ヲ雲山ニテ第ニ中隊ヲ高平ニテ第ニ中隊ヲ陸
昭和三十二年	川 第ニ中隊ヲ陽城第ニ中隊ヲ
昭和三十二年	約三百科平ノハシリヲ維持シ海板一ノハシリヲ
昭和三十二年	首之元大行山脉ノ中ニ及リ夜ヲ討伐ニ敵ニ備

昭和十九年
三月三日

三精進

軍大本營命令其及中隊等件三集結

三月三日山西風吹雪大ニ多ク部隊等件

城ヲ後ニ路ヲ平漢作戦ニ送リテ三看テリ

昭和十九年
四月十九日

黄河南岸に平漢王城陣地ヲ據捷末又其夕

河南五野ニ戦ハシ四月十九日早ニ乘込候ハ

シ又次寧ノ飢饉ニ由リ

昭和十九年
五月十九日

三月三日大戦戦ヲ致スルヤク死傷者

約三〇〇名ヲ算セリ

昭和十九年
七月初旬

部隊ハ開封西方十宋鎮ニ集結中

昭和十九年
七月十九日

轉進シテ具馬込戦場ヲ行ヒ

且東進シテ依リ北進ニ到リ

昭和十九年 八月十九日	當時西林中佐以下一〇〇名 聯隊砲二大隊砲二 重機八 重迫砲八 擲彈筒約二〇 輕機約一二十
昭和十九年 八月十九日	那西霸港以着 部隊中砲連部連備國長學校本部 一部兵力直道キハ中隊正入古キタメ民家ニ 居住ス
昭和十九年 十二月七日	輕機同銃及少銃本部九九 廿新三七輕機同砲一 支給廿部隊ト 歷史的九止魯 仲繩島青島島尻部地云岬ニ移駐 地云

昭和二十五年
二月

情況 遺留 多し軍 故に備 山軍兵 中頭部
軍祖村 附近 三及移駐

昭和十九年八月 上陸以來 將兵 已が 莫在地 化
るやモ 知公 陣地 構築 不 三 判 國 果 右 越 マラヤ

下 敵 兵 山 軍 兵 兵 相 變 化 する こと 三 敢
開 也 一 本 大 十 字 銃 が 一 週 間 半 三 三 三

二十 九 日 減 少 一 事 見 是 作 業 一 度 語
ル 三 定 一 時 部 隊 長 以 下 一 千 百 七 十 名 三 隊 部 長

米軍 上陸

昭和二十五年
八月十九日

部隊 下 三 物 三 三 米 軍 三 攻 密 加 フ

昭和二十五年
八月二十日

米軍 上陸 第一 大隊 報 告

中隊作戦

旅の主力は第三大隊

一、四、五、六、七、八、九

軍中隊は備下之上向時上陸地矣ハ当然ハ吾部隊正面よりト
全員玉碎ニ覚悟シテ永陰陣地ニ始メ第一陣地ニ向テ
ヲ持ツ (二月二十五日) 悪良間引島上陸

四月日中隊本島ヲ本納ニ米軍上陸

此進ル敵ヲ吾部隊が前面ヲ阻止セムトハ死ノ陣カク傾
注シ四月十九日敵部隊が突破スル敵隊ニ五〇部隊

第一線陣地 (第三中隊担当者) ニ侵入シ来リ

第三中隊長 長以澤中尉以下第三中隊ニ百ノ名ハ

伴祖高地ニ夜態夜ヲ決行ス 夜中ニ米軍ニ襲撃スル

隊ニ近接セシメ本島自衛小銃ニ日中伴祖高地

三才ニ二才自衛祖 結集スル

夜間、敵軍の確証を得、相手が損害を被るに
 二、如く、度々後退せしめ、敵の再び新本ヲ加テ早朝戰
 車迄加ニ攻襲し、素々第三中隊ニ二十日朝迄ニ長陣ヲ
 中尉以下約百五〇名ヲ失ハシ、敵ニ二十日第一線陣地ヲ
 突破せしむ。伊祖高地ニ被襲シ、死体が茶室トシテ、
 横タルヲ見ル。伊祖ニ至リテ敵ハ二年ニ別ヒテ、一カハ
 西海山岸直道ヲ一カハ伊祖ヲ突破スルカ、次ハ却テ汝ハ
 城間ニ向テ前進シ、コノ間第三中隊ヲ攻テ、敵隊本部
 第四、第五、機銃、生要砲、ソレニ配属部隊ハ速射
 砲中隊、砲立機銃、大隊ガコノ敵ヲ仰テ城間、赤川、
 天父祖、中波茶、四四高地ニ壯烈ニ戦フガ開始サシ、
 第一中隊ハ赤川ニ向テ前進スル。敵軍隊ニ對シ果敢ニ
 肉迫攻撃ヲ行シ、伊祖高地下ニ於テハ輜戰車ヲ擱留シ

セラメ 二十一日夜東中隊及機回銃中隊一部が表参川ノ
 敵ニ對シテ夜襲ヲ来リ 第六隊本部 及第五中
 隊一部ハ城回ヲ行テ即東 第五中隊ハ四二番地ニ
 對テ入リ且斬込ヲ敢テ 四月二十一日 四月二十一日迄
 附近約ハ料内外地ニ莫ク被我ノ乱シテ死斗ヲ續ケテ
 ラシタリ 此ノ間又且ハ消極的戦ヲ行テ夜ハモテハ二三三五
 号ニ敵陣目ガシテ果敢ニ斬込ヲ敢テシタリ
 然レ共制比ノ權ハ利海權ニ依リ島ノ作戦ハ五〇の軍ニ
 利アズシテ車ヲ走シ且進ミテ敵歩兵ノ新平ノミト
 築リ去シ 水陸兩用戦術ヲ入良ク戦車約也ノ輛ヲ東
 破ルニ機 自軍砲ノ撃ム多ク我ノ戦利留ラズ本隊
 タリト雖モ 約七〇〇ノ軍ヲ氣遣者ヲ由シタリ
 四月二十一日 部隊ハ生村者ノ王部ヲ獲ルニ由ル

又陣所 五、其地陣地ニ後退セリ。
四月二十九日 六、其地陣地ヲ先見セリ敵ハ海ノ底ニ砲爆東
流テ文有ニ攻東ニ銃砲眼ヨリモ砲彈ヲ密ニ入ルニ至リ
約一時半、之ヲ射爆東ニ後白煙彈散下入船ニ
敵身所ニ自ラ知リ、將兵ハ白霧ニ陣地ニ至テテ
散見スル所ニ即ニ射ニ攻東ニ就中ニ指サシ機ヨリ一攻
東ニ散列スル機ニ爆東ニ倒レ、モ一掃出 敵ニ
或死者多シ數ヲ未クモ知レ、九時頃 時攻東ノ
中止ヤリ、一時攻東ヲ再開セル敵ハ其方ニ増強シ
ニ方面ニ攻東ニ事ヲニ世ニ成、日煙彈攻東ノ其ニ
攻車ヲ先頭ニ陣地ニ以テテヤリ
攻車砲ニ銃砲眼ヨリ陣地内ニ東ニ入リ、二、一、敵車ニ
射シ内部ヨリ以テ間道ニ攻東ニ事ヲ成セリ

佐々木も戦死者を増え、ハカチヤリ
 加ハテ東部陣地ハヨリ火増放射ヲシケルタ陣
 地内ハ執業トガフル充満シ生地獄ヲ現ス
 内モ居タシ生者有ハ西部ハヨリ由東陣地内
 ニ対シテ東ニ居ル戦車ニ向テ加ハ四輪ヲ東破セリ
 午後四時頃迄戦中ハ續クサレ本部及
 破屋工兵隊ハ本部ハ(九分用)ハ戦死セリ
 夜生生存者、殆ドハ前通敵ニシテ斬込ヲ致シ
 附近陣地ニ入りテ第一、第三中隊、機同隊中隊、
 一部モ古口、自衛先頭ニ協力、夜間斬込ニ由ル
 至機、榴弾、小銃、自砲ヲ銃、善戦、利品、及
 敵ハ死傷モ亦大ナリカ
 事、官房上、能クモ兵士二十天隊ハ皆戦中ニ終リ

◎

合、取、り、く、稱、ふ、に、見、ゆ、
後、の、再、編、成、に、由、る、事、也、
方、隊、也、
ト、記、ス、ル